

## 平成25年度 前期授業改善の結果及び後期授業改善の取組について

### 1 「前期の成果指標」の結果 ※極力、数値で示すこと

(1)成績には中川学習スタンダードの定着の割合等も深く関係し、クラスに差が顕著に表れている。D層40%以内を目指す取り組みについては、残念ながら3年国語算数、4年理科、5年理科が達成することができなかった。	(2)墨田区学習状況調査において、読む力・書く力については、6年5年2年は目標値に近い正答率であった。しかし3年は大幅に目標値を下回っていた。4年は読む力は目標値に近いが書く力は7ポイント目標値を下回っていた。
(3)墨田区学習状況調査において、言語力については、5年は13ポイント、6年は7ポイント目標値を上回ることができた。また2年も上回っている。しかし3年は10ポイント下回っていた。	(4)家庭学習週間7日間のうち5日間以上自己目標の時間を達成できた児童は81%であった。算数では6年はAB層が43%おり前年より6%増。5年はAB層が65%と多いが理科は15%と低い。4年はA層なし、B層が前年より高い。3年は前年より20%上がっている。

### 2 後期の授業改善の重点的な取組

#### (1) 課題（課題と、課題であることを示す学力調査の結果等）

- ・3年は、国語では目標値より書く能力が23ポイント、読む能力が12ポイントも下回っている。算数ではそれぞれの観点で平均15ポイント以上下回っている。中川学習スタンダードを定着させ、基礎学力の定着を図る。
- ・理科において4年は3観点とも6ポイント、5年は観察実験の技能が7ポイント、自然事象についての知識理解が12ポイント、6年は観察実験の技能が15ポイント下回っている。科学的な見方や考え方が深まるように理科教材を充実させ、観察実験の結果から考察し表現できる力をつける。
- ・3年を除いて漢字や計算をはじめとする基礎学力が少しずつついてきている。しかし、国語では物語文や説明文を読み取ったり、算数では文章問題や図形問題が弱い。B層C層の児童を伸ばして活用力をつけるようにする。

#### (2) 課題解決のための主な取組と成果指標

##### 主な取組

- 1 学級経営を通して集中して学習する姿を身に付ける。
- 2 中川学習スタンダードを定着させ、基礎基本の定着を図る。
  - ①既習漢字が書けるように、ドリルやプリントを使って漢字の練習を繰り返し行う。
  - ②少人数指導や放課後学習を生かして個別指導を充実させ、苦手な児童の基礎的な既習学習の習得を図る。
- 3 4年5年6年の理科においては、観察実験を通して生活体験や既習学習から自分の考えを述べるができるようにする。また、観察実験の予想、用具の扱い方、実験記録、結果、まとめ等のノート指導をする。
- 4 家庭学習週間の取り組みによる家庭学習の定着化と保護者の家庭学習支援への啓発、年間2回の読書月間を設定し、読書の習慣を育てて想像力や語彙力を豊かにし国語の力を伸ばす。

##### 成果指標

- ・理科、観察実験の技能、自然事象についての知識理解については5ポイントアップを目指す。
- ・3年については、それぞれの観点で5ポイントアップを目指す。
- ・どの学年も国語算数の観点で3ポイントアップを目指す。

1 平成 25 年度【前期】授業改善の取組

(1) 学力D層の平均正答率を対目標値の70%以上にするための取組み			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的、基本的な知識、技能の確実な定着を図る</li> <li>・ 中川スタンダードにより学び方を確立させ、意欲的な学習態度を身につける。</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習漢字や算数練習問題の反復練習に取り組む。</li> <li>・ 家庭学習の定着化を図る。</li> <li>・ 通級学級担任と連携して指導する。</li> <li>・ 教材研究を深め、教師の授業力向上を図り、授業の質を高める。また、問題解決的学習を中心とした校内研修会を年6回実施する。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間3回実施する中川学習状況調査によって、国語算数の基礎学力の習得状況を検証していく。</li> <li>・ 児童アンケート調査で「授業がわかる、楽しい」のポイントアップを図る。</li> </ul>	取組指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字や計算についてはドリルやプリント、小テストを繰り返し行い基礎学力の定着を図る。</li> <li>・ 朝学習、放課後学習、家庭学習では、できるだけ各児童の能力に合わせた学習ができるように教材を準備する。</li> <li>・ 必要に応じて、通級学級で個別指導を行う。</li> </ul>
(2) 区の共通課題①「読む力・書く力」を育成するための取組み			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書活動の充実を図る。</li> <li>・ 全校で音読指導（一人読み、グループ読み等）に取り組む。</li> <li>・ 「書く力」を育成するため、学年毎に高める活動に取り組む（日記、ミニテスト、作文、感想文、講話内容等）。</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書月間、朝読書、ボランティアによる読み聞かせ、本の整備等により図書室活用度の向上を図る。また、学年毎に名称をつけた読書記録カードを作成して意欲的に取り組ませる。</li> <li>・ 全教科で、「書く」ことを育成するための取り組みをする。</li> <li>・ 国語習熟プリントを活用して表記能力を高める。</li> <li>・ 学校全体で漢字検定受験への意欲を持たせるような漢字学習に取り組む。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年2回の読書月間中、低学年20冊、中高学年1000ページの目標読書量を設定する。</li> <li>・ 漢字検定申込者35%を目指す。</li> </ul>	取組指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書月間を年2回、読み聞かせを毎月2回、朝読書を週1回、図書室整備を週2回行う。</li> <li>・ 朝学習、土曜授業日に時間を設定して、国語のプリント学習に取り組む。</li> <li>・ 全校で漢字検定の過去問をプリントで取り組む。</li> </ul>
(3) 区の共通課題②「言語力・考える力」を育成するための取組み			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えをもち、それを伝え、考えを深めることができるようにする。</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝学習で言語学習や文章題のプリントを行い、考える問題に取り組ませる。</li> <li>・ 作文や感想文を書く機会を増やす。</li> <li>・ 友だちの前でスピーチする機会をもつ。</li> <li>・ 教師は、1単位時間の中に習得と活用（考える時間）を入れて授業を展開する。</li> <li>・ 校内研究授業、模擬授業ですべての教員が授業実践を行う。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことやまとめたこと、自分の考えを発表する機会を設定し、児童の変容を確認する。</li> </ul>	取組指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験活動や行事の後にはできるだけ作文や感想文を書かせ、必ず指導を入れる。</li> <li>・ 朝の会の1分間スピーチ等、学年に応じた取り組みを工夫する。</li> <li>・ 授業では、ワークシートに書いた考えや話し合った考えを発表する機会を多く設定する。</li> </ul>

(4) 学校の課題に対する取組み			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科や生活科において観察、実験の結果を整理し考察できる児童を育てる。</li> <li>家庭学習を定着させる。</li> </ul>	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験では生活体験や既習学習から自分の考え等を入れてノートやワークシートに必ずまとめる。</li> <li>毎日宿題等、家庭学習を行う習慣化を図る。</li> <li>授業観察を通して、中川学習スタンダードの学習の定着化を図る。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的に探求する姿勢や科学的な見方が育っているか、児童の変容を見守る。</li> <li>家庭学習時間は、低学年 15 分、中学年 30 分、高学年 60 分取り組む。</li> </ul>	取組指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の予想、器具の扱い方、実験記録、結果、まとめ等のノート指導をする。</li> <li>ノートやワークシートにまとめたものを掲示する機会をもつ。</li> <li>学年だより等で家庭学習の目標時間を提示し、保護者にも家庭学習への支援を啓発する。</li> </ul>

## 2 墨田区教育委員会「平成 25 年度における主要な教育課題」に対する具体的な取組み

確かな学力の定着と向上	(1) 授業改善・授業力の向上		
	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究を徹底し、授業の質の向上を図る。また、校内研究の模擬授業や授業観察を通して全教職員で授業改善に取り組む。</li> <li>3, 4 年次教員の年 1 回の授業研究を実施する。</li> </ul>	
	(2) 興味・関心を高める教育活動の展開		
	方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャー、出前授業等で多様な学習活動を展開し、「夢」や「目標」への意識付けをする「学ぶ機会や学ぶ場」を設定する。</li> <li>図書館を活用した調べ学習に取り組む。</li> </ul>	
(3) ICT化に伴う情報機器を活用した授業の構築			
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間 3 回の授業観察では情報機器を活用した授業を必ず 1 回行う。また、教員が利用しやすいように予算内でできるだけ多くの ICT 機器の整備を行う。</li> </ul>		